

▶▶▶ リレーメッセージ ▶

本気の、寄り道のすすめ ～ビジネスから福祉に戻るまで～

高橋 民紗（旧姓：西郷）

（コミュニティ福祉学科 2007 年卒業）



「ママ、がんばったから、次のところ行っていいよ」

新卒から7年間勤めた会社を転職するか悩んでいた時に、当時3歳の娘が私に言ってくれた言葉です。私はこの言葉に背中を押されて、昨年の秋、福祉の業界に戻ってきました。私は現在、日本財団というところで社会的養護の支援をしています。仕事は助成事業のほか、法制度の検討、イベント開催、NPOなどとの協働プロジェクトの実施など様々です。といっても、転職してからまだ1年足らずですので、日々勉強中です。

私は学生時代からこれまで数々の「寄り道」をしてきました。いつか仕事として子どもや福祉の役に立ちたいという思いがあったにもかかわらず、まわり道になるようなことばかりしてきたのです。始めは興味半分だった「寄り道」もありましたが、振り返るとそこで学んできたことこそが、次に進むときにとても役に立ったように思います。福祉の分野に戻ってくるにあたり、転機となった「寄り道」を振り返りつつ、『本気の、寄り道』をおすすめしてみたいと思います。

寄り道①ー学生時代

大学入学時は、高校生のときに立ち上げたNPOで途上国の子どもたちの支援をしようと思っていました。大学ではすでにご退職された岡田徹先生のゼミで、バングラデシュヘフィールドワークに行ったり、実習では児童養護施設にもいきました。前回のリレーメッセージを書いた岩瀬くんは一緒にバングラデシュにも行った仲間であり、当時の仲間たちはいまでも刺激をもらう存在です。一方で、大学ではラグロス部に所属し、部活漬けの日々を送っていました。途上国にいく時間もテスト期間などの部活のオフ中にしかとれないという状況で、当時はこんなはずではなかったと、もどかし思うこともよくありました。しかし、4年間続けた部活で身につけた根気やチームワーク、役割意識などは社会人になってからも仕事をする上でのベースとなりました。家族よりたくさんの時間を過ごした部活の仲間は兄弟のような関係で、今もなくてはならない存在です。

寄り道②ー就職

大学に入学した時は、卒業後、福祉の分野で働くことしか考えていませんでしたが、企業で一度働いてから福祉に戻ろうという思いが強くなり、不動産業界のデベロッパーに就職しました。就職を決めたのは、建築や不動産に興味があったからではなく、そこで働くひとに惹かれたことが理由です。当時の人事担当に、入社して5年したら大学院にいく、と言ってもそれを受け入れてくれるような会社でした。就職前は企業にうがった見方を持っていた私でしたが、お客様と一緒に働く仲間のために仕事をし、喜んでもらえるのはとても楽しく、営業・商品企画・統括などを担当した社会人生活は学ぶことの連続でした。人にも恵まれ学びながら給料ももらえるなんて、働くってすばらしいと思いました。もちろん、仕事ではたくさんの失敗もしましたし、辛いこともありました。それでも一生懸命やるなかに大きな楽しさがあり、自分の決めた目標に対して手を尽くすことが仕事をする上での一つの軸になりました。言葉にならない思いをくみ取ること、相手の期待を超えること、本当のゴールを描くこと、何かをやり遂げようとするときに必要なことを教えてくれたのがビジネスでした。

寄り道③ー大学院

就職をするときに、5年後に大学院にいった福祉の勉強をする、と決めてからあっという間に5年が過ぎました。偶然にもちょうどその5年目に、子どもを産み、産休育休をとっていました。出産直後は大学院の受験勉強どころではなく、正直、もう大学院はあきらめるしかないと感じていました。しかし、どうしてもあきらめがつかず、やってみるだけやって、ダメだったらあきらめようと思い、一念発起して受験勉強。家事育児の合間をぬい、子どもが寝ている時間だけが貴重な勉強時間でした。奇跡的に大学院に受かり、復職と同時に学生生活が始まります。朝早く起きて勉強し、会社に行って定時で仕事を終わらせ、授業を受けて、走って保育園にお迎えにいき、寝かしつけたらまた勉強という生活でした。当時はもし倒れたら、学校か仕事をやめるしかないと腹をくくっていましたが、意外にも丈夫なもので、2年間で論文も書き上げました。論文のテーマはソーシャルビジネスで、仕事を通して見えてきたことから発想を得て、福祉にビジネスの要素を取り入れる意義を書きました。手を尽くすという仕事の意気込みでやりきった論文が評価され、幸運にも一高記念賞という賞までもらい、仕事で身に着けたことが実を結んだ大学院生活でした。

そして、大学院を卒業した節目で、自分の人生の時間を何に使うか、と考えるようになりました。仕事として福祉にかかわりたいと思う一方、子どもがいるなかでの業界を超えた転職は大きな不安もありました。しかし、いつか福祉の業界に戻ることを念頭にこれま

でやってきたことを評価してもらい、家族にも背中を押され、次に進むことにしたのです。

一見、遠回りになりそうなたくさんの「寄り道」は、視野の狭かった私に、知ろうとしなかったことを教えてくれ、それまで見たことのない素晴らしい景色や仲間に出会わせてくれました。人生での「寄り道」は物事に対する姿勢やものの見方など、何をする上でもベースとなる部分を成長させてくれるように思います。ただ、いい「寄り道」をする上で大事なことは、本気で寄り道をするということです。中途半端にやると、周囲にも伝わり、自分も言い訳しがちになります。やるなら『本気の、寄り道』がおすすめです。もし、財団にインターンとして「寄り道」したい方がいれば、ぜひご連絡ください（笑）。次回は、昨年バングラデシュから帰国した、ゼミでも会社でも後輩である楠山詠子さんに託します！